

株式会社ノリタケカンパニーリミテド

2022年3月期 決算説明会

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。
こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などによって、計画と異なる可能性があることにご留意ください。

内容

- 1. 2022年3月期の業績**
- 2. 2023年3月期の業績予想**
- 3. 第12次 中期経営計画の概要**

内容

- 1. 2022年3月期の業績**
2. 2023年3月期の業績予想
3. 第12次 中期経営計画の概要

1. 2022年3月期の業績

連結損益計算書

増収増益、経常利益は過去最高額

売上高 1,276億円、営業利益 94億円、経常利益 125億円、当期純利益 91億円

(億円)

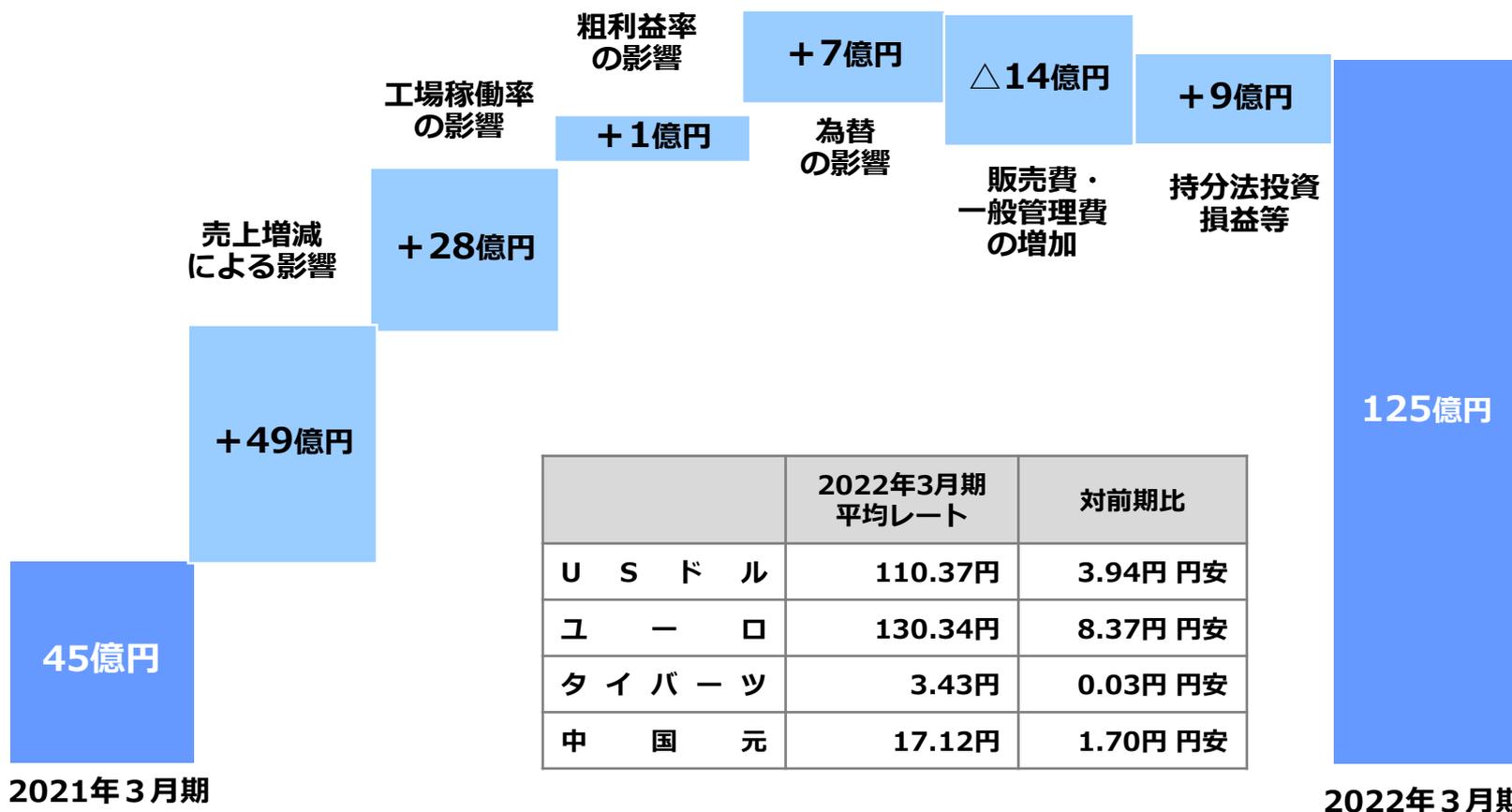
	2021年3月期			2022年3月期			対前期比
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	
売上高	502	568	1,070	615	662	1,276	+19.3%
営業利益	△3	28	26	42	52	94	+265.7%
経常利益	7	38	45	57	68	125	+179.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△0	28	28	42	49	91	+223.1%

期末配当金 80円/株 (年間150円/株)

1. 2022年3月期の業績

経常利益の変動要因

売上増加と工場稼働率の良化により対前期比 80億円の増加



1. 2022年3月期の業績

特別利益・特別損失

投資有価証券売却益 1.2億円、固定資産処分損 8.7億円

(億円)

特別利益	
固定資産売却益	0.2
投資有価証券売却益	1.2
その他の	—
合計	1.4

※1

特別損失	
固定資産処分損	8.7
地中埋設物処理費用	2.9
その他の	0.1
合計	11.6

※2

※3

- ※1 主に政策保有株式の売却
- ※2 名古屋・栄ビルの除却撤去費用 4.6億円を含む
- ※3 工場跡地の地中埋設物の処理費用

1. 2022年3月期の業績

セグメント別 売上高

主要顧客の生産回復、電子部品関連が好調に推移し、全事業で増収増益

(億円)

		2021年 3月期	2022年 3月期	増減	対前期比
売上高	工業機材	474	573	+100	+21.1%
	セラミック・マテリアル	328	407	+80	+24.3%
	エンジニアリング	214	236	+21	+10.0%
	食器	54	60	+6	+10.3%
	計	1,070	1,276	+206	+19.3%
営業利益	工業機材	△12	31	+43	—
	セラミック・マテリアル	31	54	+23	+75.0%
	エンジニアリング	20	21	+1	+2.8%
	食器	△13	△12	+1	—
	計	26	94	+68	+265.7%

今期より連結子会社1社のセグメントを工業機材からエンジニアリングへ変更。
セグメント情報は全て変更後で記載しております。

1. 2022年3月期の業績

セグメント別 売上高

工業機材事業

商品別売上高

(億円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減
研削砥石	140	166	+26
日本レチボン製品	141	176	+34
ダイヤ・CBN工具	98	120	+21
研磨布紙	63	74	+11
関連商品	31	39	+8
合計	474	573	+100

国内



自動車、鉄鋼、ベアリング業界、電子部品関連で顧客の生産が回復

海外

北米で自動車業界が回復、中国で自動車、鉄鋼業界が堅調に推移、東南アジアでも市況回復



1. 2022年3月期の業績

セグメント別 売上高

セラミック・マテリアル事業

商品別売上高

(億円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減
電子ペースト	91	107	+15
電子部品材料	113	155	+42
セラミック原料	49	63	+15
セラミックス	75	83	+8
合計	328	407	+80



電子ペースト

高速移動体通信用及びパソコン用電子部品の需要が堅調

電子部品材料

通信分野及び自動車用向けの需要が堅調



1. 2022年3月期の業績

セグメント別 売上高

エンジニアリング事業

商品別売上高

(億円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減
乾燥炉・焼成炉	151	170	+19
混合攪拌装置	14	13	△1
濾過装置	15	13	△2
超硬丸鋸切断機	7	11	+4
ロードカッター等	27	29	+2
合計	214	236	+21

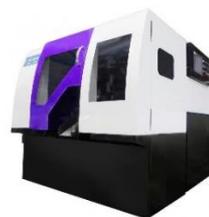


乾燥炉・焼成炉

リチウムイオン電池、
電子部品分野で堅調

濾過装置

国内売上は低調、
ベアリング向け
の受注が回復し
海外売上は増加



超硬丸鋸切断機

海外の鋼材加工
用が好調

1. 2022年3月期の業績

セグメント別 売上高

食器事業

商品別売上高

(億円)

		2021年 3月期	2022年 3月期	増減
国	内	26	25	△1
米	州	15	18	+3
欧 ア	州 ア	13	17	+4
合	計	54	60	+6



国内

オンライン・直営店での売上げが伸び、百貨店、エアライン、ホテル・レストラン向けで減少



米州

主要顧客向け販売が回復基調



欧州・アジア

中国、インド向けが伸長

1. 2022年3月期の業績

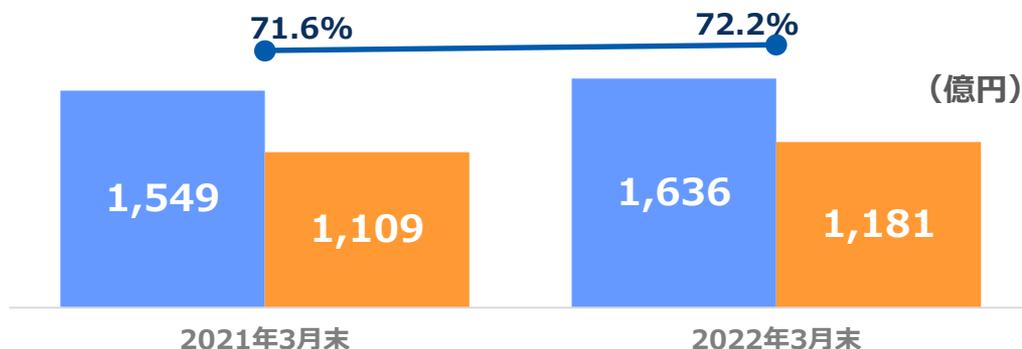
連結貸借対照表

業績回復をうけて営業資産、仕入債務、利益剰余金が増加

(億円)

	2021年 3月末	2022年 3月末	対前期末比
総資産	1,549	1,636	+87
自己資本	1,109	1,181	+72
1株当たり純資産	7,685円	8,184円	+499円
自己資本比率	71.6%	72.2%	+0.6%

■ 総資産 ■ 自己資本 — 自己資本比率



1. 2022年3月期の業績

Noritake

連結貸借対照表

設備投資・減価償却費

(億円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	対前期比
設 備 投 資	46	49	+3
減 価 償 却 費	48	47	△1

有利子負債

(億円)

	2021年 3月末	2022年 3月末	対前期末比
有 利 子 負 債 ※	79	65	△14
現 預 金	123	142	+19
ネ ッ ト 有 利 子 負 債	△44	△77	△33

(※有利子負債にリース債務を含めず)

1. 2022年3月期の業績

キャッシュ・フロー計算書

フリーキャッシュフローは 70億円、増収増益により対前期比+87億円

(億円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	対前期比
営業活動によるCF	59	128	+69
投資活動によるCF	△76	△58	+18
フリーキャッシュフロー	△17	70	+87
財務活動によるCF	16	△54	△70
現金及び現金同等物残高	97	117	+20

1. 2022年3月期の業績

海外販売比率 (金額ベース)

		2021年3月期	2022年3月期
工業機材		29%	34%
セラミック・マテリアル		52%	54%
エンジニアリング		47%	50%
食器		51%	58%
合計		40%	44%

海外生産比率 (金額ベース)

		2021年3月期	2022年3月期
工業機材		14%	17%
セラミック・マテリアル		35%	39%
エンジニアリング		7%	15%
食器		46%	53%
合計		20%	25%

内容

1. 2022年3月期の業績
- 2. 2023年3月期の業績予想**
3. 第12次 中期経営計画の概要

2. 2023年3月期の業績予想

連結業績予想

売上高は増加、利益は前期と同水準

(億円)

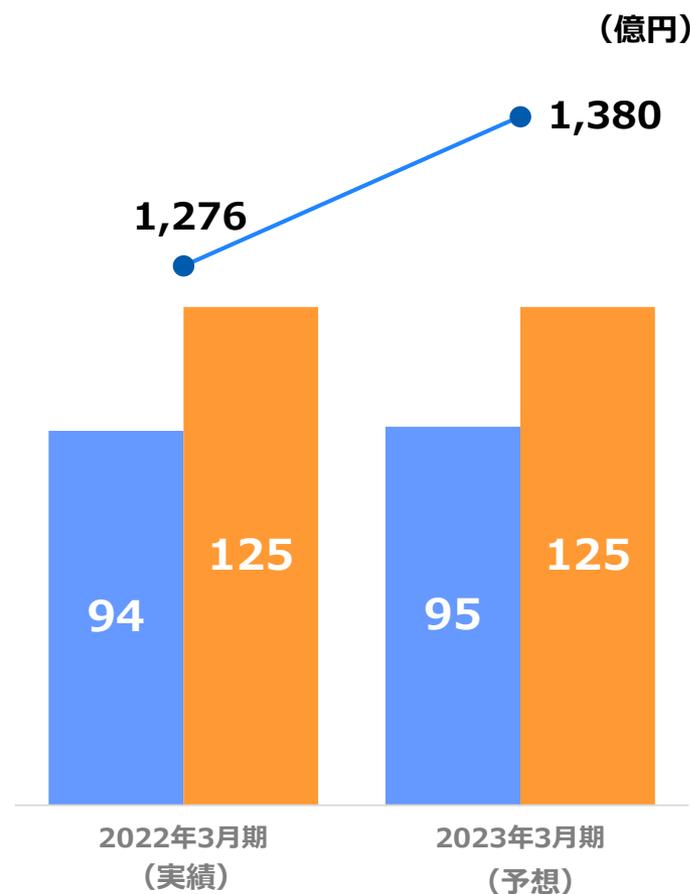
	2022年 3月期 (実績)	2023年 3月期 (予想)	対前期比
売上高	1,276	1,380	+104
営業利益	94	95	+1
経常利益	125	125	△0
親会社株主に 帰属する 当期純利益	91	95	+4

US\$ = 110.4円 120.0円

2023年3月期(予想)

設備投資 60億円 減価償却費 50億円

— 売上高 ■ 営業利益 ■ 経常利益



2. 2023年3月期の業績予想

セグメント別業績予想

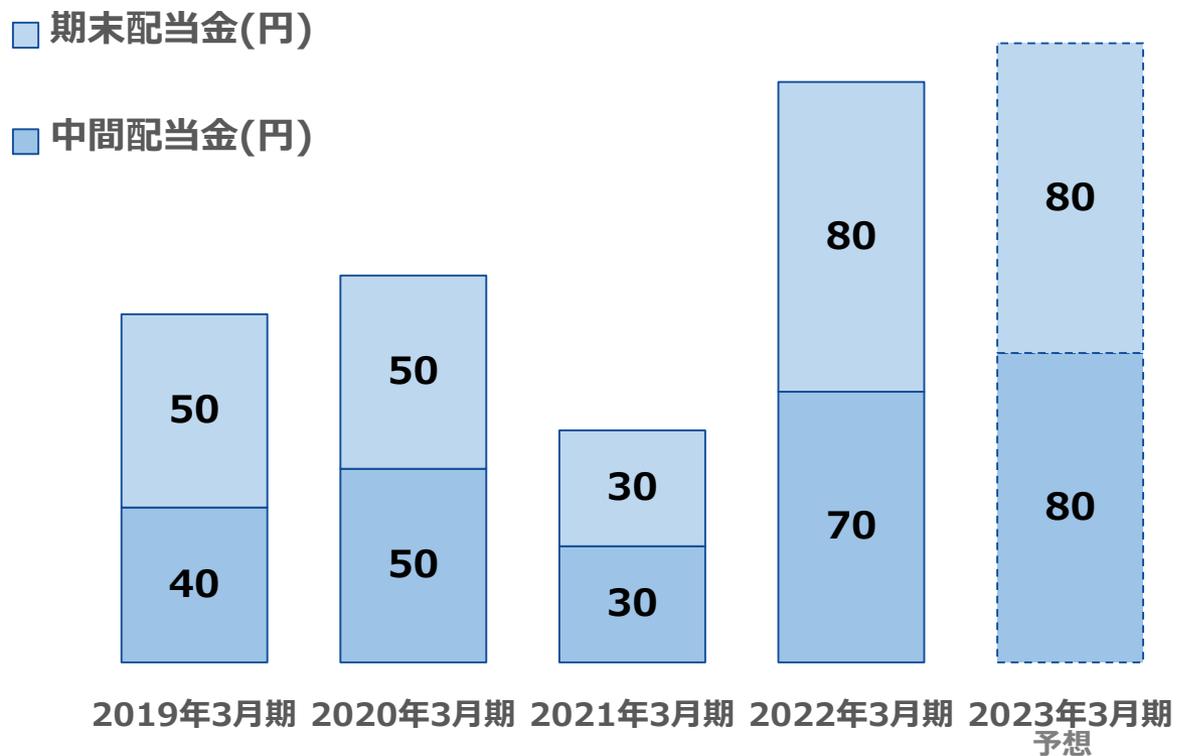
(億円)

		2022年 3月期 (実績)	2023年 3月期 (予想)	増減
売上高	工業機材	573	595	+22
	セラミック・マテリアル	407	460	+53
	エンジニアリング	236	260	+24
	食器	60	65	+5
	計	1,276	1,380	+104
営業利益	工業機材	31	25	△6
	セラミック・マテリアル	54	54	△0
	エンジニアリング	21	21	+0
	食器	△12	△5	+7
	計	94	95	+1

2. 2023年3月期の業績予想

配当金

来期配当予想は年間160円



1. 2022年3月期の業績
2. 2023年3月期の業績予想
- 3. 第12次 中期経営計画の概要**

3. 第12次中期経営計画の概要

【第11次中期経営計画の振り返り】

経営課題

成長性と収益性の向上

投資（M&A、設備、開発）の加速

ESG（環境・社会・企業統治）への取り組み

経営目標（2019年5月9日公表）

売上伸長率	年 5 %
営業利益率	7 %
R O E	8 %以上
海外販売比率	50 % (長期的目標)

連結売上高	1,360 億円
連結営業利益	90 億円
連結経常利益	110 億円
想定レート	USD105円

3. 第12次中期経営計画の概要

【第11次中期経営計画の振り返り】

基本戦略

- ・ 競争力のある新商品・新技術開発の促進
- ・ 海外生産拠点の増強と海外市場開拓の推進
- ・ 国内販売体制・製造体制の再整備
- ・ ものづくり強化活動、環境活動、安全衛生活動、働き方改革と事業活動の一体化

コロナ禍など事業環境の大きな変化に対応するため
最優先事項として

+ 選択と集中の加速

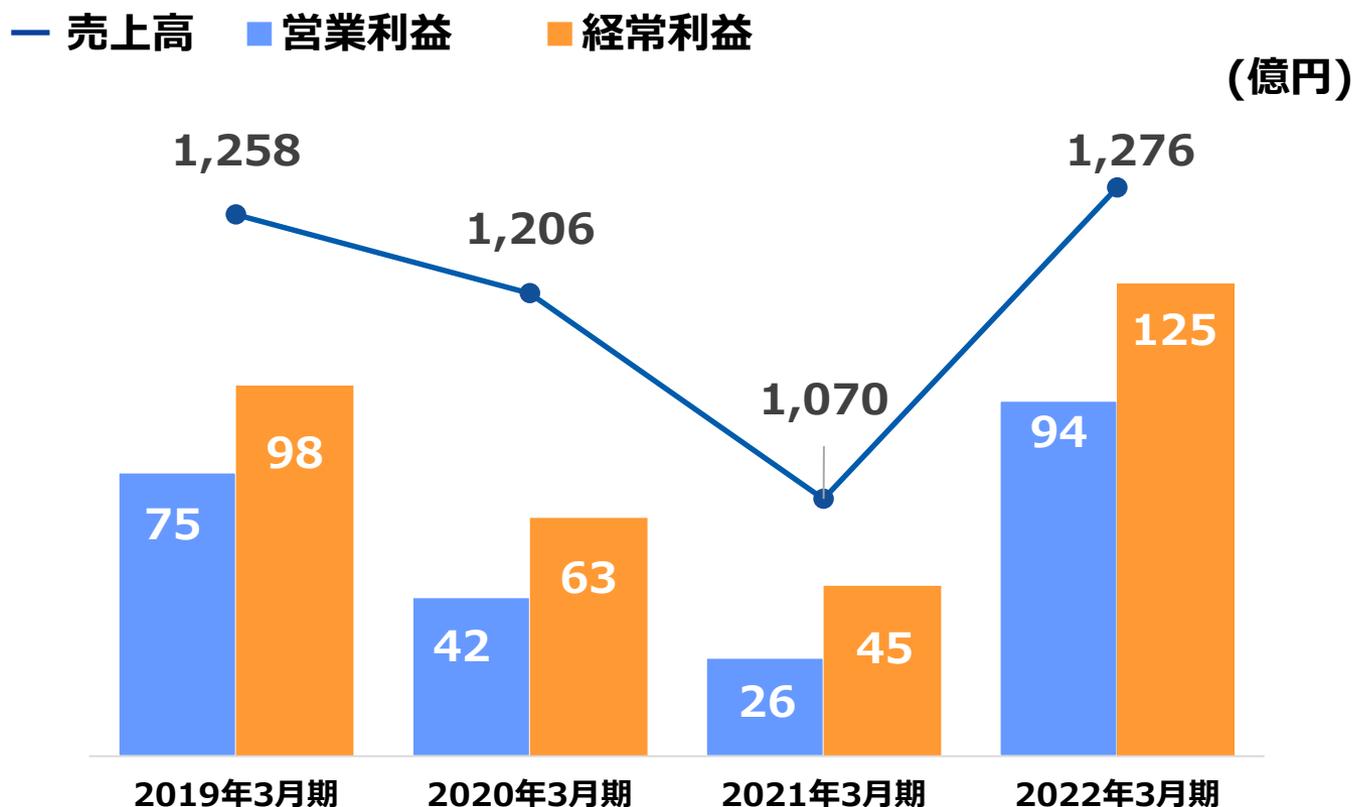
成長性・収益性を向上させるための事業体制の整備を推進

3. 第12次中期経営計画の概要

【第11次中期経営計画の振り返り】

連結業績

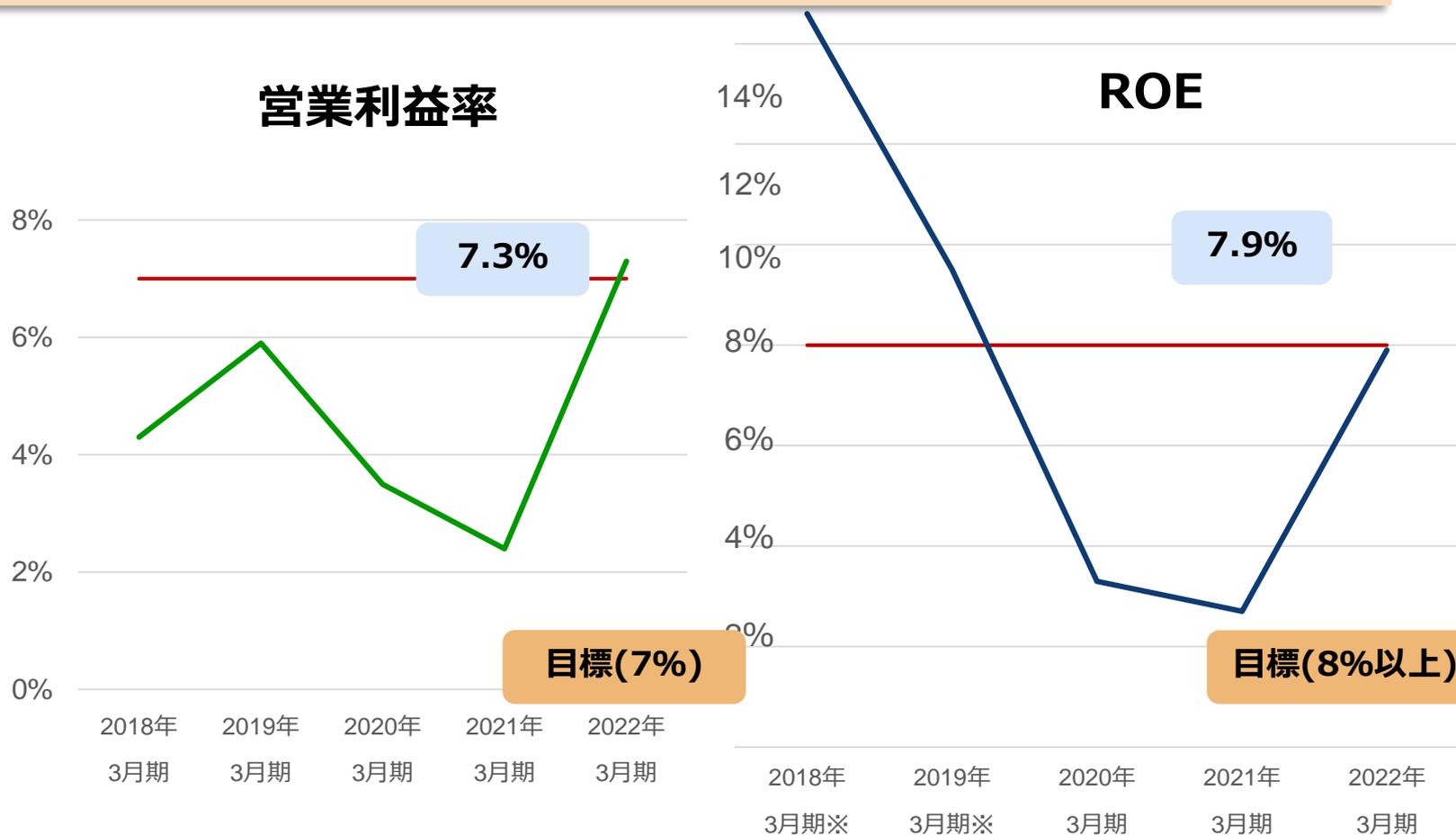
最終年度で業績大幅に改善するも、売上高は経営目標に届かず
営業利益・経常利益は経営目標を達成



3. 第12次中期経営計画の概要

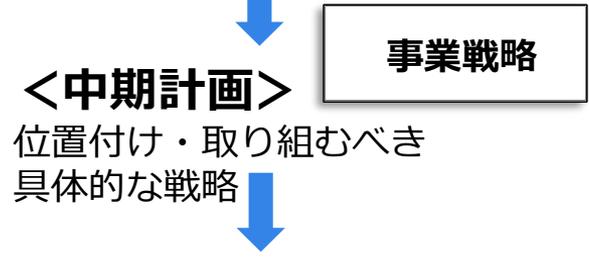
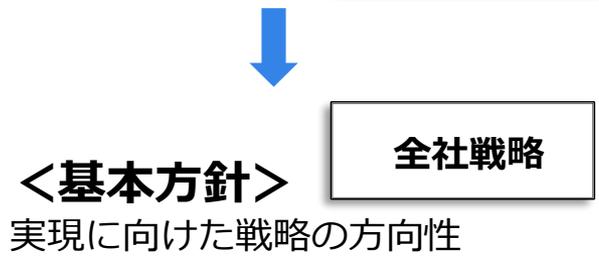
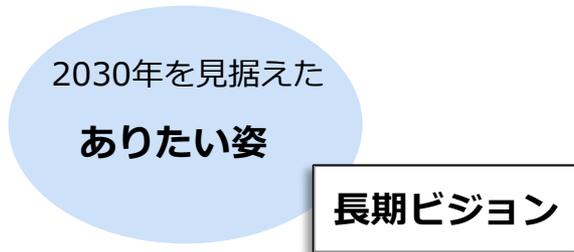
【第11次中期経営計画の振り返り】

営業利益率は経営目標達成、ROE(自己資本利益率)も目標レベルに



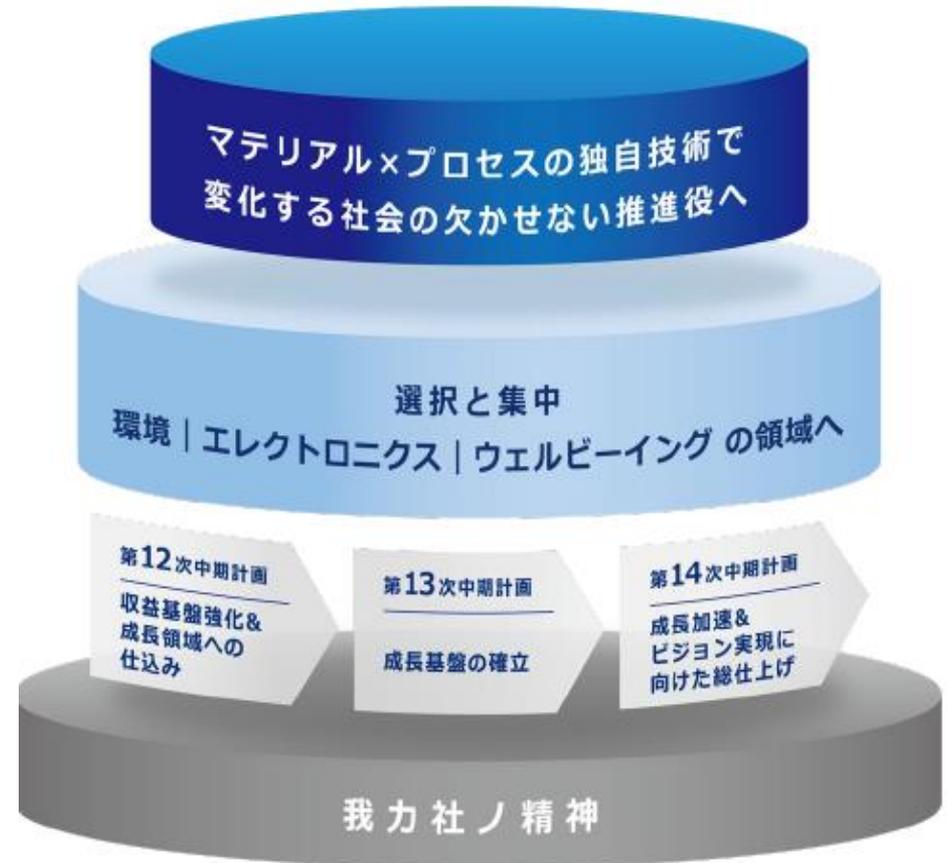
※工場跡地の売却益を計上しております。

3. 第12次中期経営計画の概要 長期ビジョン（ありたい姿）



収益基盤の強化と成長領域への注力

マテリアル×プロセスの独自技術で
変化する社会の欠かせない推進役へ



“事業を通じて社会に貢献”

経営理念

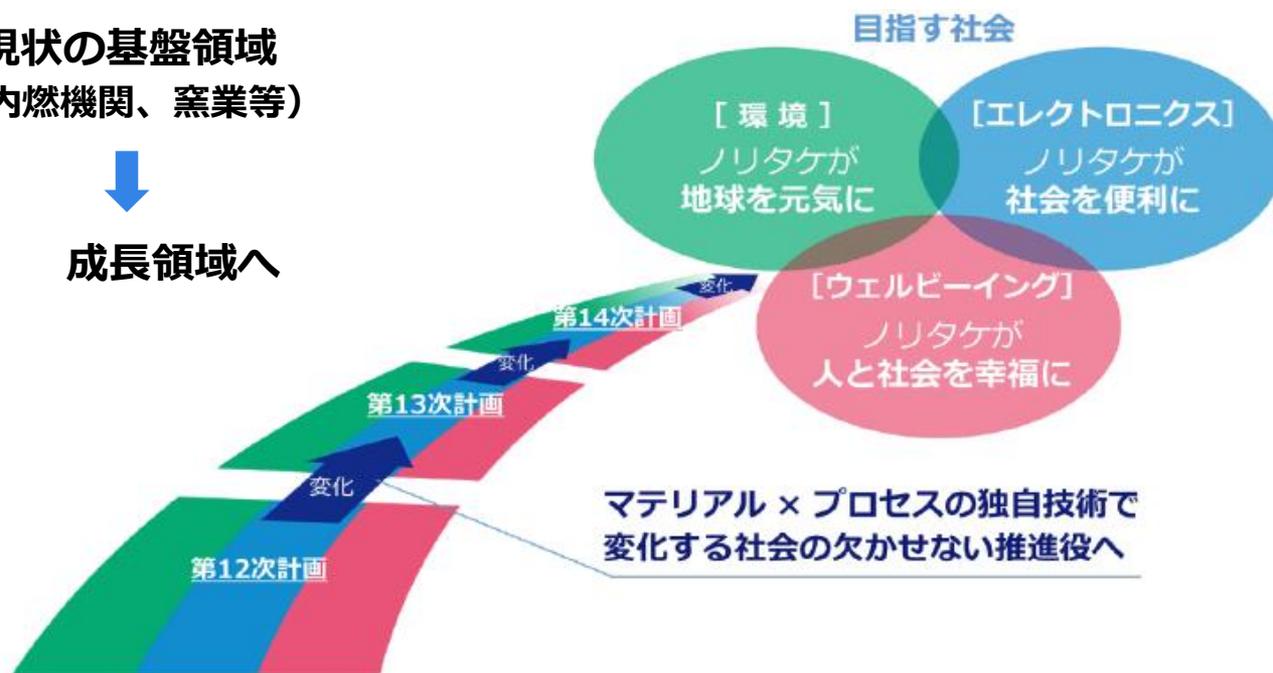
3. 第12次中期経営計画の概要 全社戦略（基本方針）

環境、エレクトロニクス、ウェルビーイング を成長領域と定め
 「選択と集中」をさらに進め、事業領域の転換を図る※

※ 現状の基盤領域
 （内燃機関、窯業等）



成長領域へ



「地球を元気に」「社会を便利に」「人と社会を幸福に」する企業を目指す

3. 第12次中期経営計画の概要

中期経営計画の位置付け (2023年3月期～2025年3月期)

収益基盤の強化と 成長領域への "仕込み" の期間

- ・ 収益基盤の強化 … 不採算商品・事業の再編、収益改善・合理化
- ・ 成長領域への仕込み … 増産・拡販への対応、経営基盤の強化

【経営基盤の強化のための取組み】

- ① 新事業の創出
- ② 組織風土の改革
- ③ サステナビリティ経営体制の整備
- ④ DXの推進

3. 第12次中期経営計画の概要

経営基盤の強化のため取り組むテーマ

全社横断的な取り組みで経営基盤を強化

基本戦略	取組内容
① 新事業の創出	新事業のテーマ探索を当社グループ全社レベルで行うと共に、事業化プロセスを構築し、新事業の創出に結び付ける
② 組織風土の改革	2030年度の長期ビジョン(ありたい姿)に必要な組織風土を実現するため、人事制度の整備や働き方改革を推進し、従業員のチャレンジ精神の醸成とエンゲージメントの向上を図る
③ サステナビリティ経営体制の整備	持続可能な社会の実現に向けた社会課題の解決のため、サステナビリティ経営体制を整備し、カーボンニュートラルの実現、気候変動リスク対応等のサステナビリティに向けた取り組みを進める
④ DXの推進	生産性や技術力の向上、顧客対応力の高度化を実現するため、DX推進体制を整備し、デジタル技術を活用したプロセス改革を推進

3. 第12次中期経営計画の概要

経営数値目標 (2022年3月24日公表)

新たな指標としてフリーキャッシュフロー (FCF) を採用

	2025年 3月期
売上高	1,470 億円
営業利益	130 億円
営業利益率	9 %
自己資本利益率 (ROE)	9 %
フリーキャッシュフロー (FCF)	200 億円 (3年間累計)

創出したFCFは 主に成長投資に充当

3. 第12次中期経営計画の概要

各事業別の取り組み課題

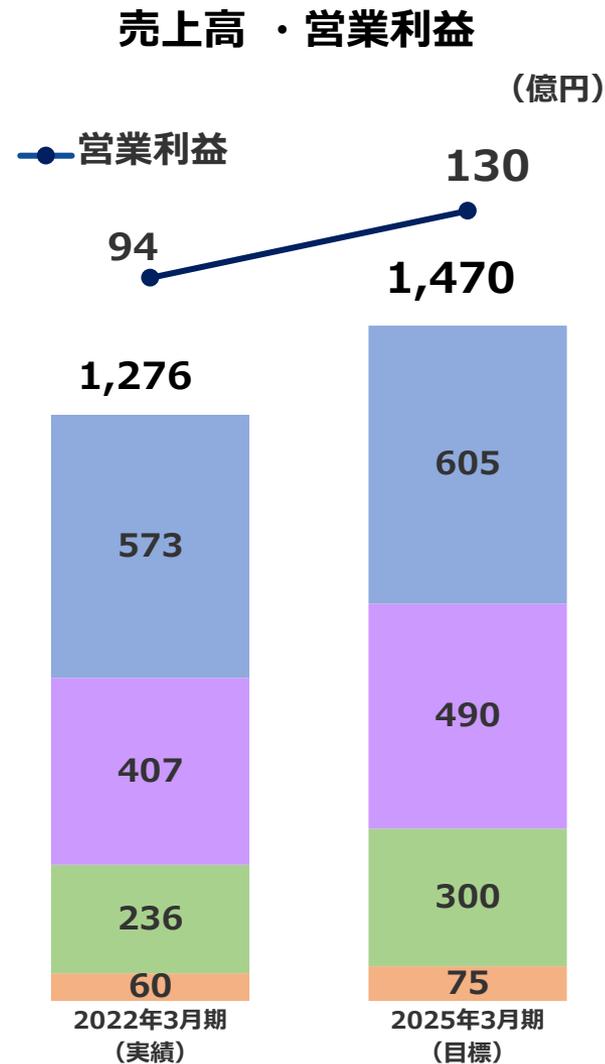
「3つの成長領域」を各事業部の成長市場と捉え、経営資源を集中



3. 第12次中期経営計画の概要

セグメント別売上高・営業利益目標

		(億円)			
		2022年 3月期 (実績)	2025年 3月期 (目標)	増減	
売上高	工業機材	573	605	+32	
	セラミック・ マテリアル	407	490	+83	
	エンジニアリング	236	300	+64	
	食器	60	75	+15	
	計	1,276	1,470	+194	
営業利益	工業機材	31	30	△1	
	セラミック・ マテリアル	54	73	+19	
	エンジニアリング	21	27	+6	
	食器	△12	0	+12	
	計	94	130	+36	



工業機材事業

既存事業の収益改善と成長分野進出に向けた基盤整備

オーダーメイド品と汎用品に事業を再編し、効率的な事業体制を構築



【オーダーメイド品事業】

- ・徹底した収支改善、増産体制の確立、販売拠点の整備等による収益基盤の強化
- ・半導体、自動車の電動化等の成長領域における新技術・新商品の開発



【汎用品事業】

- ・経営基盤の効率化と製造・販売体制の再編による収益力の強化
- ・成長領域への進出に向けた製造・開発・営業体制の構築、経営資源の集中

3. 第12次中期経営計画の概要

セラミック・マテリアル事業

事業基盤の強化

電子ペースト

エレクトロニクス分野での製品ラインナップの拡張と生産能力の増強によるシェアの拡大、新商品の開発推進

電子部品材料

積層セラミックコンデンサ用材料の生産能力増強による事業の拡大、成長領域における新商品の開発推進

- ・ 事業ポートフォリオの再構築
- ・ 事業の選択と集中、新商品・新事業の創出



3. 第12次中期経営計画の概要

エンジニアリング事業

事業規模の拡大と新分野の開拓

【エネルギー、エレクトロニクス分野】

拡販とアフターサービス体制の強化によるシェア拡大



水素燃焼式リチウムイオン電池極材用連続焼成炉 (C-SERT-RHK-Nero)

【自動車分野】

電動化に伴う新用途・新商品の開発推進



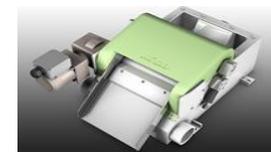
小型
スタティックミキサー

【新分野（医療・医薬、半導体、新素材）】

新分野への参入と市場の開拓



ファインバブル
(微細気泡) 発生器



クーラント濾過装置

【環境分野】

新用途・新商品の開発



乾式ロードカッター

3. 第12次中期経営計画の概要

食器事業

黒字化の達成

国内

オンライン販売の強化
ホテル・レストラン向けの拡販
流通経路・物流の再整備による経費削減

米州・欧州・アジア

成長市場であるインド、中国、
東南アジア等の主要国での拡販

